

1、さまよえる魂の行方

ここで少し趣を変えまして、死後のミステリーについて、現代科学はどんな答えを用意しているのを見ておくことにしましょう。

最近、NHKの番組で、「超常現象・第1集 さまよえる魂の行方」というドキュメンタリーが放映されました。幽霊、テレパシー、生まれ変わり、臨死体験等々、超常現象を科学的に説明しているという番組です。興味本位の番組が多い中で、どこまで科学で分かっているのか、今、どんなことが科学の最先端で行われているのか、真摯しんしに魂の行方を追求した良心的な番組と言えるでしょう。

そのなかで「臨死体験」と「転生」という問題が、科学で解決できない問題として提起されていました。

臨死体験現象の一つに、長い暗いトンネルの先に光が見えており、その暗いトンネルを抜けると目にもまばゆいお花畑があったり、光り輝く世界がある。そこには亡くなった家族や知人が温かく迎えてくれ、「あなたは、まだここに来てはいけない」と諭され、蘇生するという現象が数多く報告されています。

この現象について、番組は、次のような科学的検証を紹介しています。

これまでは心臓が停止すると脳も停止すると考えられていました。

しかし、実際には心臓が停止し脳に酸素が送られなくなっても、脳は三〇秒にわたって活動し続け、しかも酸素の供給が停止してからのほうが、より活発に活動し続けることが分かってきたというのです。脳がフル活動を開始したこの三〇秒の間に、脳内で起こっていることと臨死体験現象に何らかの関連があると、脳科学者は考えています。現にアメリカ軍の航空パイロットたちが体験するGロックという現象があります。これは人体に極度の重力負荷がかかると、血液は下半身にとどまり、脳が酸欠状態になり、ついに意識を失ってしまうという現象です。

このGロックを体験したパイロットの多くが、臨死体験者と同じ「トンネル現象」

を報告しているのです。パイロットたちの報告を聞くと、意識を喪失するとき、まずブラックアウトという視界が失われる現象が起ります。その後、トンネルのようなものが見え、トンネルの先には白い光というか、それに似たようなものが見えてきて、心が穏やかで、静かで、大きな幸せを感じ、とても心を打たれるような感じになったというのです。

つまり臨死体験といわれる現象は、酸素の供給を絶たれた脳が、一時的に活性化することによって起る現象だということであり、これによって「死後の世界などは存在しない」と、一部の脳科学者たちは結論づけます。

しかし臨死体験には、脳の働きだけでは説明できない側面を持っています。臨死体験者の半数近くが体験したという「体脱現象」です。

多くの場合、体から抜け出した自分が、横たわっている自分を見おろしているという現象なのですが、これも脳の錯覚によっておこるものだという説があります。スイス連邦工科大学では、視覚や体の感覚に、ある情報を与えることで、この体脱体験を実験室で再現することに成功し、この実験結果から、体脱体験とは脳のデータ処理の

ミスから起る現象だと結論づけます。

しかし、実験では被験者は自分の体が自分の体から抜け出す感覚を体験しているのですが、感覚だけで具体的な情報は得られていないのです。

体脱体験をしたという多くの人が、自分が口から泡を吹いていたとか、自分を見守る医師や周りの人の状況とか、その場にはない限り知り得ない情報を得ていること等、脳のデータ処理ミスではとても説明がつかないことがおこっているのです。

結局、臨死体験という現象は、脳科学で説明できない「謎」を、依然、残したままという状況なのです。

そしてもう一つ、科学で説明できない現象が「生まれ変わり」という現象です。

前世の記憶を持つ子どもたちについては、世界四〇カ国以上で二五〇〇件以上の事例が確認されており、アメリカのバージニア大学が主体となって、この子供たちに聞き取り調査が行われています。その多くは三、四歳くらいまでは前世の記憶を話し続けますが、六、七歳になるとピツタリと話さなくなり、普通の人生を送り、自分がそんなことを話していたことすら覚えていない場合がほとんどだと言います。

そして、これらの子供たちに共通しているのは、なぜか賢い子が多く、高い知能指数を示す子が多いということです。

脳科学者の中には、「前世の記憶」を、幼児期健忘症といって二歳までは記憶が形成されず混沌としている状態だと言います。そこで見たこと、聞いたことが、自分の記憶として残ってしまうことがあり、この「偽りの記憶」こそが、前世の記憶と呼ばれる正体だということです。

しかし、この「偽りの記憶説」では、子供たちが知るはずのない遠く離れた国での人間関係を、彼らが記憶していた事実を説明することはできません。

ライアンという子供の事例に至っては、何十年前に亡くなった人物の人生と、ライアン君の証言が、実に五十四項目にわたって一致したといえます。

このように子供たちの証言と事実関係が一致した事例は、ライアン君の事例以外にも世界三十五か国で報告されています。

バージニア大学で生まれ変わりの研究を続けるジム・タッカー博士は、「生まれ変わりは、単なる記憶に頼っているのではなく、前世とのつながりを示す確かな証拠だ」と断言しておられます。さらに、「これらの事例を追求していく中で、我々は、単なる物理法則を超えるものがあると確信していきました。そして物理世界とは別の空間に『意識』の要素が存在するのだと。『意識』は単に脳に植え付けられたものではないのです。おそらく宇宙全般を見る際に、まったく別の理解が必要になってくるでしょう。現在の宇宙観は、宇宙を単なる物理的なものとし、物質的なもの以外は存在しないとしています。しかし、それらの見方を見直し、常識とは異なる方法で見る必要がある」と、結んでおられます。

このように、「臨死体験」と「生まれ変わり」という事例については、脳科学では説明できないということが判明しました。そればかりか、科学の世界でも、「物理世界とは別の空間に意識の要素が存在するとし、その意識という要素は、脳に植え付けられたものではない」と考えられているらしいのです。

さらにこの「意識」という問題は、量子力学の世界からもアプローチされています。

二〇世紀を代表する天才物理学者ロジャー・ペンローズ博士、彼とともに研究を続

けてきたアリゾナ大学意識科学研究センター所長スチュアート・ハメロフ博士、このお二人の打ち出した人間の「意識」に関する仮説があります。では次に、その概要を概観しておくことにしましょう。

2、量子力学と死後の世界

量子脳理論

ところで、ペンローズ博士やハメロフ博士の説く「意識の世界」について概観するなど偉そうなことを言いましたが、正直に言いますが、はっきり言って、私にはちんぷんかんぷん——ペンローズ博士の「心の影」「心は量子で語れるか」、「ペンローズの量子脳理論」と、次々と本を取り寄せ挑戦はしたものの、とても刃が立つものではありません。

そう言えば田池先生存命中、僕が量子力学の本を読んでいるのを知って、「あなたにはこの本を理解するのは無理やなあ、わしが読んで、あんたに解説したげるわ」と、これらの本を持って行かれたことがあります。田池先生は、もともとは数学畑の先生でしたから大いに期待していたのですが、その後、病に倒れ、そのまま亡くなってしまわれ、この約束は果たされないうちになりました。

かくなるうえは自力更生と、これらの本を再び取り寄せ挑戦におよびましたが、案の定、再挑戦もむなしく、田池先生の言われるように、僕にはまるで理解不能。

そこで、なぜそんなことが言えるかという証明や理論のほうはすっ飛ばし、ペンローズ博士とハメロフ博士がたどり着いた結論あるいは仮説（量子脳理論）だけを紹介することにいたします。

永遠の生命

ペンローズ博士とハメロフ博士の説く「量子脳理論」を一言で言うと、「私たちの意識は量子情報（素粒子）である」という説です。私たちの神経細胞の中に「微小管（マ

イクロチューブル) というものがあり、量子情報を貯蔵し、生きている間は、脳に付属していますが、肉体が亡くなると、意識(量子情報)は、宇宙に放出されるということです。

ただ、死の途中過程で蘇生した場合、量子情報は、マイクロチューブルに回収され、意識を取り戻すこととなります。この量子情報の回収に伴う現象が臨死体験であり、蘇生せず、他の肉体に量子情報が移行した場合、これを生まれ変わりだとか、転生という現象になるのだということです。

つまり「意識 \parallel 量子情報」は永遠に存在し、人間は死なないという結論になる訳です。

とんでもない情報伝達

ここまでは理解可能範囲なのですが、量子情報を考えるとき、忘れてならないのが「量子もつれ」という現象で、これについては理解不能のため、その働きだけを記します。たとえばコンピュータで考えると、単純に跡をたどることが可能な回路を経て、信号が伝達されます。しかし量子情報の伝達は、「量子もつれ」と呼ばれる未知のプロセ

スを経て情報が伝達されます。

これについてハメロフ博士は、「量子もつれは、意識と深い関係があると私たちは考えています。ある場所でニューロン(刺激を伝達する神経細胞)の活動が起きたとします。すると空間的に離れた全く別の場所で、それに対応した反応が起きる。直接接触していないのに、瞬時に情報が伝わる」と言い、更に「脳内の意識が量子もつれによって、広く宇宙全体に存在する可能性もある」とも言います。

ハメロフ博士は、更に、その宇宙そのものの構成成分として、人の意識の元となるような「原意識」が存在するとし、「私が原意識と定義したものは、ビッグバンのときから宇宙に存在しています」と述べておられます。

かみ砕いて言うと、たとえば、「たった一人の存在で、何が変わる?」というのは、物理世界のお話で、意識(量子情報)の世界では、一人の言動が、量子もつれというプロセスを経て、とんでもない場所に影響したり、宇宙全体に影響を及ぼす可能性も考えられるということらしいのです。